

10

各種呼吸器疾患における細径ファイバースコープ
による末梢気道の観察

(内科学第一) ○宮本大介, 市瀬裕一, 国澤晃,
柳澤直志, 楠本洋, 平嶺陽子,
水野耕介, 金井恵美子,
菊地和彦, 牧野繁, 春日郁馬,
峯村和成, 清川浩, 米丸亮
(老年病学) 黄川田雅之, 高崎優

【目的】閉塞性換気障害をきたす各種肺疾患での末梢気道を内視鏡的に観察することにより, その形態学的変化と呼吸機能との関連を検討した。

【対象と方法】非喫煙者13例を対照に, 慢性気管支炎13例, 小葉中心性肺気腫17例, 分類不能なCOPD 8例, びまん性汎細気管支炎 (DPB) 9例の計60例を対象とした。方法は従来の気管支鏡の生検鉗子孔より径1.8mmの細径ファイバースコープを挿入し, 細気管支領域を観察, 比較検討した。

【結果と考察】肺気腫例では, 呼気時の気道閉塞と肉柱形成が特徴的であり, 慢性気管支炎例では末梢気道での粘稠性分泌物の付着と顆粒状の気管支変形所見が得られた。DPBでは第6から10次分岐までの口側気道の拡張, 粘稠性分泌物の付着と第10次分岐の陥凹状盲端像を認める部位を確認し得た。細径ファイバーで観察できる領域は第11から12分枝領域から中枢の末梢気道であるが, 肺泡領域や呼吸細気管支領域に病変の主座をもつ疾患においても, 内視鏡的にその特徴を捉えることが可能であり, それら形態学的異常が呼吸機能障害に関与していることが示唆された。

V11

気管狭窄に対するステント挿入の経験
とその問題点

(外科学第一) ○坪井正博, 古川欣也,
中嶋伸, 田口雅彦, 熊坂英雄, 緒方潔,
中嶋隆, 酒井治正, 小中千守,
加藤治文

【目的】当科では, 気管狭窄に対する症状及びQOLの改善を目的としたステント挿入術を現在までに40症例に施行した。その内訳は肺癌8例, 気管癌6例, 食道癌の気管浸潤3例, 甲状腺癌の気管浸潤5例, リンパ腫1例, 縦隔腫瘍1例, 結核性7例, カフステノーシス9例であった。挿入ステントは, 従来Tefron tube, silicon T tube を使用してきたが, 最近ではステントの材質や形状の改良に伴い, Dumon tube, Z-stentやWall stent などのSelf expandable metallic stent (SEMS), またDynamic stent などを汎用するようになった。また, 挿入方法も安全性の面から硬性気管支鏡が積極的に使用している。しかし, 各々のステントに欠点があり, 未だ満足のいくものではない。我々が経験した各種ステント挿入に関わるいくつかの問題点を提示, 報告する。【方法及び症例】静脈麻酔下, 患者の自発呼吸を残し硬性気管支鏡下にステント挿入を施行した。(症例1) 甲状腺癌気管支浸潤に対してポリウレタン膜によるCovered Z-stent を挿入した。挿入直後, 末梢側への血液の垂れ込みを吸引するため気管支鏡を施行したところ, Covered Z-stent が末梢側に逸脱してしまった。オプティカル鉗子を用い緊急にステント抜去し, Dumon tube を再挿入した。(症例2) 結核性気管狭窄に対しDumon tube を挿入していたが, 喀痰の排出困難及びステントの逸脱がみられたためステント抜去しWall stent 挿入したが, 肉芽の増生のため再狭窄をきたしたため硬性鏡下にYAGレーザー焼灼後, 固定性が良好になるようにCovered Z-stent の一連を開大しステントin ステント挿入を施行した。

【結果及び考察】Wall stent はZ-stent に比べメッシュの間隙が小さいが, やはり肉芽や腫瘍の増殖のため再狭窄をきたす。再狭窄防止目的でポリウレタン膜によるCovered Z-stent を挿入したが固定性が悪く逸脱してしまった。逸脱したCovered Z-stent は抜去可能であったが, 肉芽の増生したWall stentは抜去困難であった。金属ステントの場合はステントの被覆が必要と考えるが, 固定性及び喀痰の排出が良好な材質の開発が必要と考えられた。